

## 全数及び定点(週単位報告)把握対象疾患

- 発生動向の概況 《2006年15週》
- 定点医療機関からのコメント
- 全数把握対象疾患 患者報告数
- 五類定点把握対象疾患 患者報告数

男女別

推移グラフ

保健所別

保健所別(定点当たり)

年齢階級別

- 病原体・抗体検査情報

週別検出状況

臨床診断名別検出結果

クローズアップ「インフルエンザ」

- 感染症豆知識「細菌性赤痢」

東京都医師会感染症予防検討委員会

事務局:東京都健康安全研究センター疫学情報室

電話:03-3363-3213(直通)

FAX:03-5332-7365

E-mail: idsc@tokyo-eiken.go.jp

アドレス: idsc.tokyo-eiken.go.jp/



# 全数及び定点(週単位報告)把握対象疾患

## 発生動向の概況 《2006年15週》

### (全数把握対象疾患)

・腸管出血性大腸菌感染症の2症例では牛レバ刺しの喫食歴があった。また、レジオネラ症の患者宅では24時間風呂を使用していたが、原因は特定されていない。

区分	疾患	報告 件数	情 報 (検出病原体・血清型・推定感染経路等)	推定感染地
二類	細菌性赤痢	3	ソルネ菌1件、フレキシネル菌2件	パキスタン1件、ナイジェリア・ニジェール・マリ1件、国内1件
	腸チフス	3		インド2件、インド・タイ・バングラデシュ1件
	パラチフス	2	血液から菌検出	インド
三類	腸管出血性大腸菌感染症	2	O157 VT1・VT2	国内
四類	A型肝炎	1	推定感染経路:経口感染	パナマ・エクアドル
	レジオネラ症	1	推定感染経路:水系感染	国内
五類	アメーバ赤痢	1	感染経路:不明	国内
	クリプトスポリジウム症	1	推定感染経路:水系感染	インド
	HIV感染症	15	無症候性キャリア12件、AIDS1件、その他2件 推定感染経路:異性間性的接触2件、同性間性的接触11件、性別不明性的接触1件、不明1件	国内13件、ブラジル1件、ペルー1件
	ジアルジア症	1	感染経路:経口感染	ネパール
	髄膜炎菌性髄膜炎	1	感染経路:不明	国内
	梅毒	1	早期顕症梅毒Ⅱ期 感染経路:同性間性的接触	国内
	破傷風	1	臨床決定(開口障害) 推定感染経路:古釘による足底部刺傷	国内

(推定される感染経路及び感染地は医師の届出によるものである。)

### (定点把握対象疾患 ー小児科・インフルエンザ・眼科・基幹定点ー)

・依然としてA群溶血性レンサ球菌咽頭炎の報告数が多い。

### (検査情報)

臨床診断名	患者年齢	検査試料	検出病原体	検査法
急性咽頭炎	2	咽頭拭い液	エンテロウイルス	遺伝子
急性咽頭炎、発疹症	0	咽頭拭い液	アデノウイルス	
上気道炎 胃腸炎	10M	咽頭拭い液	アデノウイルス	
肺炎	1	咽頭拭い液	ライノウイルス、アデノウイルス、RSウイルス	
肺炎	12	咽頭拭い液	マイコプラズマ	

臨床診断名	患者年齢	検査試料	検出病原体	検査法
急性細気管支炎	0	咽頭拭い液	ヒトヘルペスウイルス6型	遺伝子
喘息様気管支炎	1	咽頭拭い液	ライノウイルス	
頸部リンパ節腫脹	7M	咽頭拭い液	ライノウイルス	
ヘルペス感染症	1	咽頭拭い液	ライノウイルス	
伝染性紅斑	3	咽頭拭い液	EBウイルス	
不明発疹症	3	咽頭拭い液	ヒトヘルペスウイルス7型	
ケトン性低血糖症	3	糞便	エンテロウイルス	
急性腸炎	2M	咽頭拭い液	サイトメガロウイルス	抗原分離*
急性腸炎	2M	糞便	A群ロタウイルス	
急性上気道炎	1M	鼻汁	アデノウイルス2型	同定
腸チフス#	19	菌株(血液由来)	チフス菌	
腸チフス#	21	菌株(血液由来)	チフス菌	
疑似腸チフス#	21	菌株(血液由来)	チフス菌	

\* 遺伝子検査で報告済みの検体 # 全数把握対象疾患の報告症例からの検体

#### インフルエンザ(集団事例)検査情報

施設	検査試料数	陽性数	インフルエンザウイルス			その他
			AH1(Aソ連)	AH3(A香港)	B	
小学校(1校)	5	5			5	

#### ウイルス性胃腸炎(集団事例)検査情報

検査区分	検査試料数	陽性数	ノロウイルス		ロタウイルス	その他
			G I	G II		
施設内感染疑いまたは食中毒等	119	50	7	43		

## 定点医療機関からのコメント

#### 足立保健所

- ・インフルエンザ 1件(B型 <4歳女児>)

#### 大田区保健所

- ・インフルエンザ 21件(A型 20件、B型 1件<12歳女児>)
- ・インフルエンザ 3件(A型 1件、B型 2件)
- ・インフルエンザ 14件(B型 1件)

#### 多摩府中保健所

- ・インフルエンザ 8件(A型 8件)

#### 島しょ保健所

- ・アデノウイルス流行の兆しあり

多摩小平保健所管内でインフルエンザ様疾患による学級閉鎖があり、インフルエンザウイルスB型が検出されている。また、定点医療機関からのコメントにもあるように、大田区の小学校、保育園、学童保育施設等でインフルエンザ様疾患が流行しており、迅速診断キットでインフルエンザウイルスが検出されている。

## 全数把握対象疾患 患者報告数 2006年15週

分類	疾病名	東京都分(報告週)					全国分(診断週)	
		12週	13週	14週	15週	年累計	15週	年累計
一類	エボラ出血熱							
	クリミア・コンゴ出血熱							
	重症急性呼吸器症候群							
	痘そう							
	ペスト							
	マールブルグ病							
	ラッサ熱							
二類	急性灰白髄炎							
	コレラ						1	10
	細菌性赤痢	1	4		3	22	10	143
	ジフテリア							
	腸チフス	1	1		3	10	4	20
パラチフス	1	1		2	5	2	7	
三類	腸管出血性大腸菌感染症			1	2	12	23	139
四類	E型肝炎						2	25
	ウエストナイル熱							
	A型肝炎	1	1	1	1	15	3	115
	エキノкокクス症							7
	黄熱							
	オウム病					2		6
	回帰熱							
	Q熱							
	狂犬病							
	高病原性鳥インフルエンザ							
	コクシジオイデス症							
	サル痘							
	腎症候性出血熱							
	炭疽							
	つつが虫病						3	24
	デング熱		1	1		3	1	12
	ニパウイルス感染症							
	日本紅斑熱							
	日本脳炎							
	ハンタウイルス肺症候群							
	Bウイルス病							
ブルセラ症					1		1	
発しんチフス								
ボツリヌス症								
マラリア					4	2	10	
野兎症								
ライム病								
リッサウイルス感染症								
レジオネラ症		1	1	1	12	3	96	
レプトスピラ症								
五類 (全数届出)	アメーバ赤痢	2	4	2	1	46	7	165
	ウイルス性肝炎(A型・E型を除く)	1	1			11	5	61
	急性脳炎					4		67
	クリプトスポリジウム症				1	3	1	4
	クロイツフェルト・ヤコブ病		1	1		8	3	53
	劇症型溶血性レンサ球菌感染症					2	2	32
	後天性免疫不全症候群	8	5	10	15	131	17	312
	ジアルジア症			3	1	5	1	18
	髄膜炎 菌性髄膜炎				1	1	1	6
	先天性風しん症候群							
	梅毒	1		4	1	24	11	149
	破傷風				1	2	3	16
	バンコマイシン耐性黄色ブドウ球菌感染症							
	バンコマイシン耐性腸球菌感染症	1	1	1		4	1	16

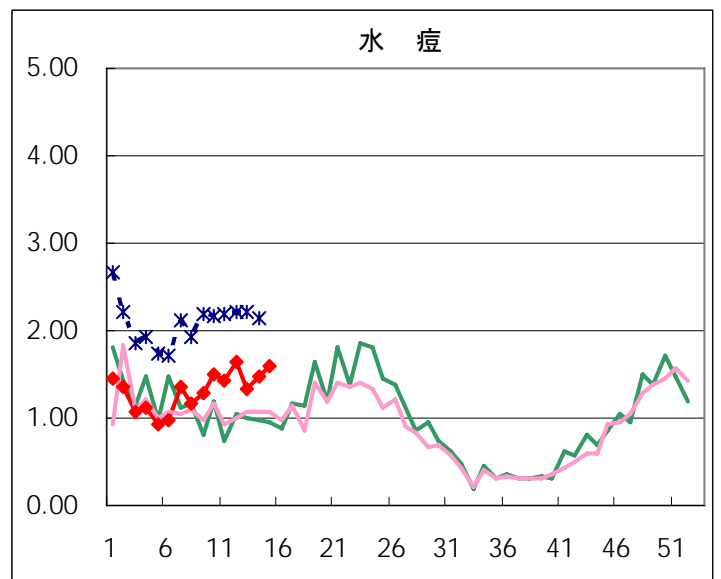
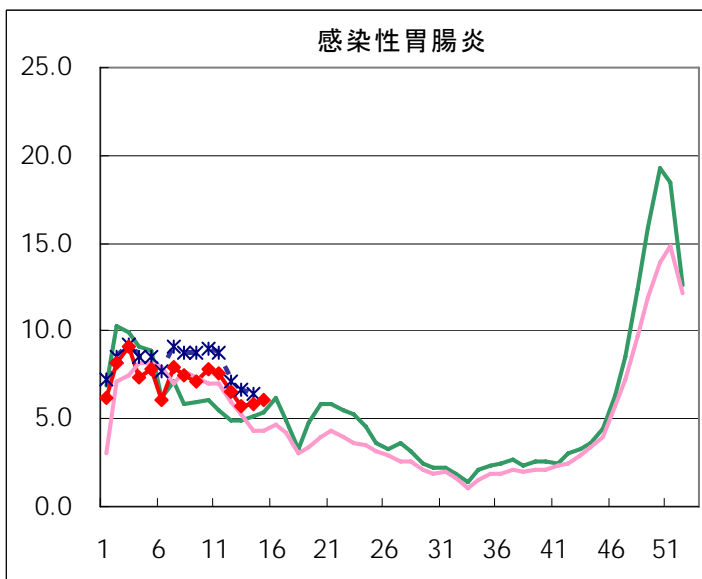
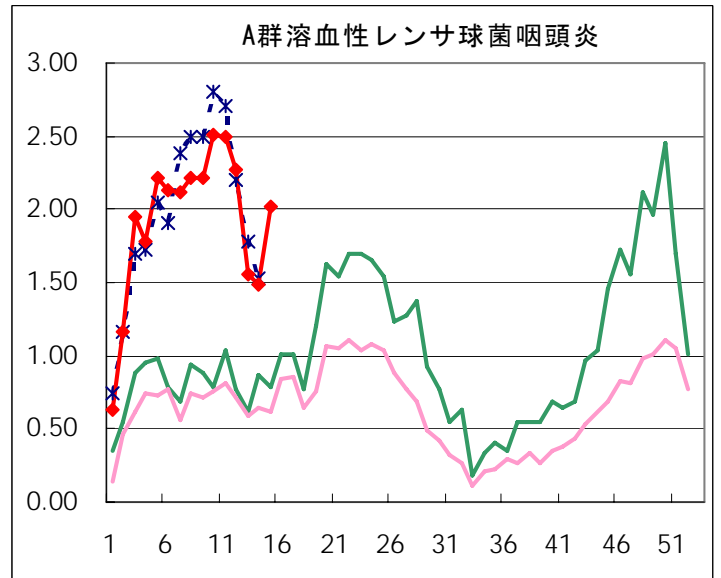
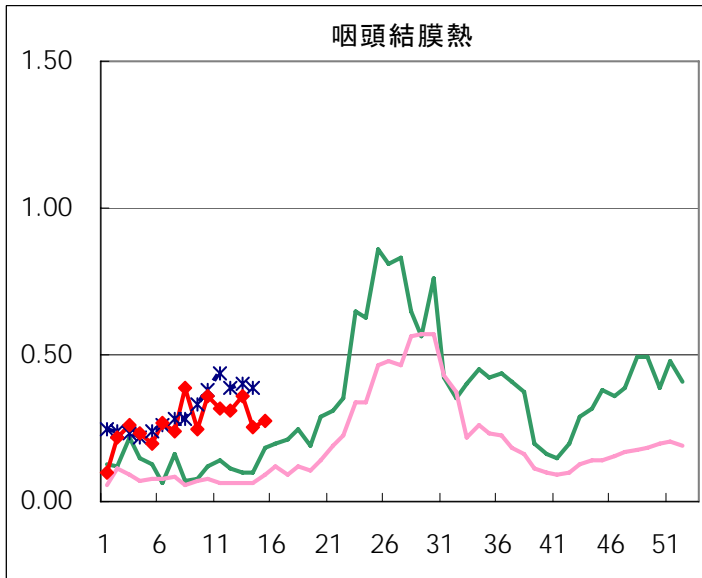
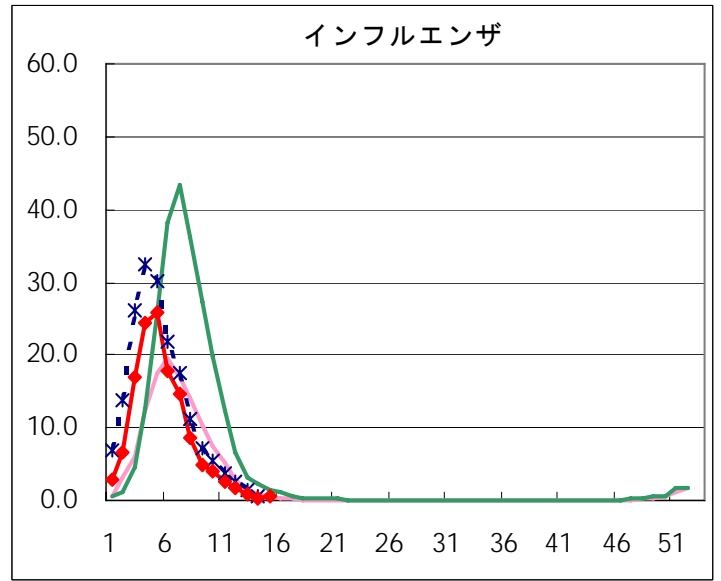
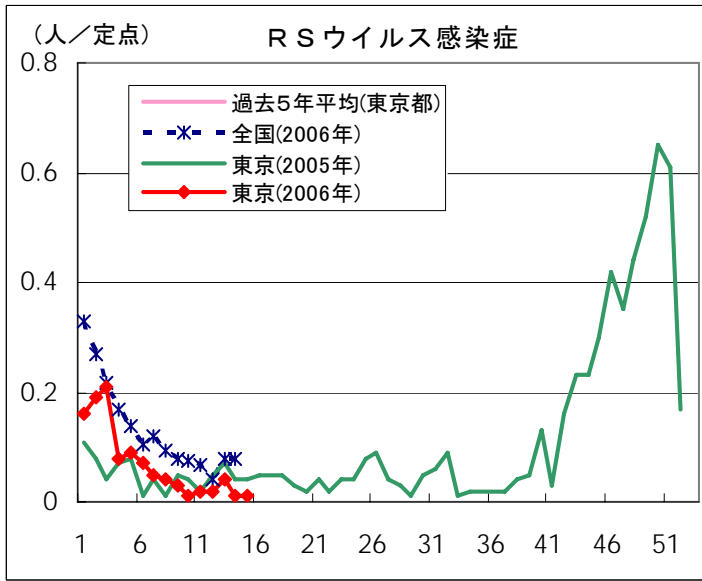
2006/04/19集計

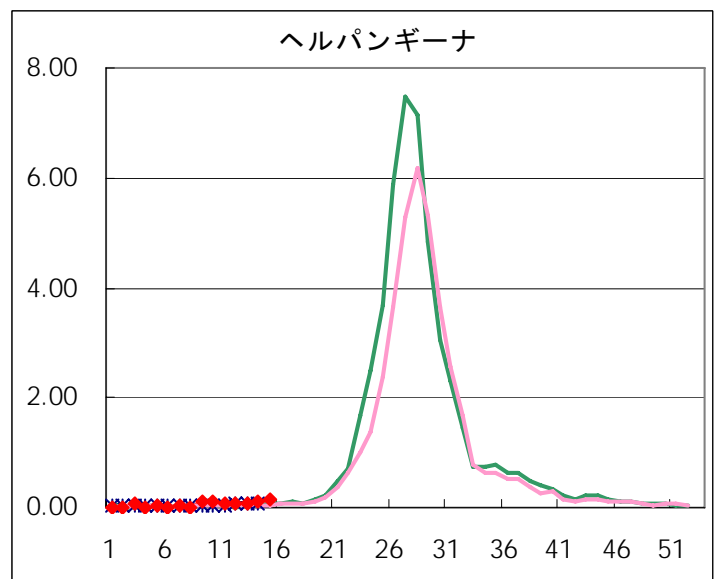
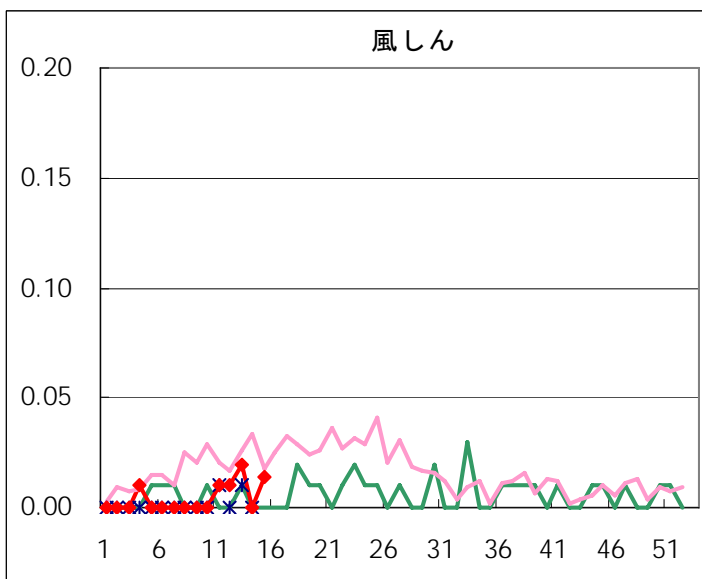
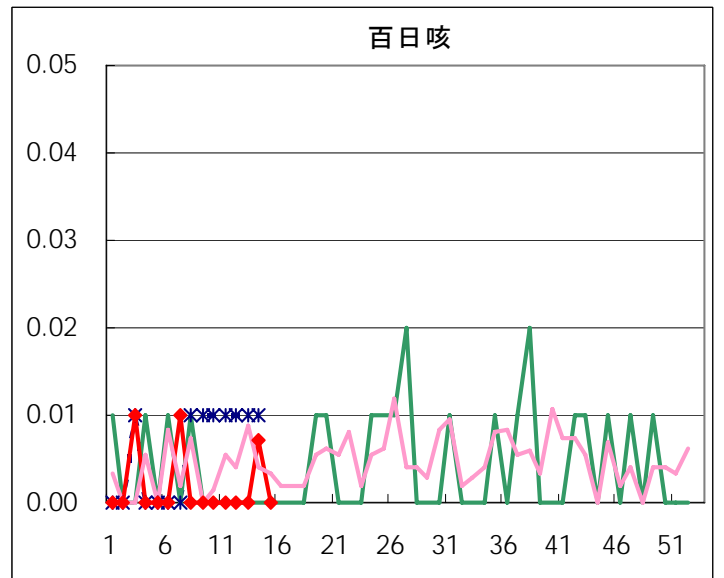
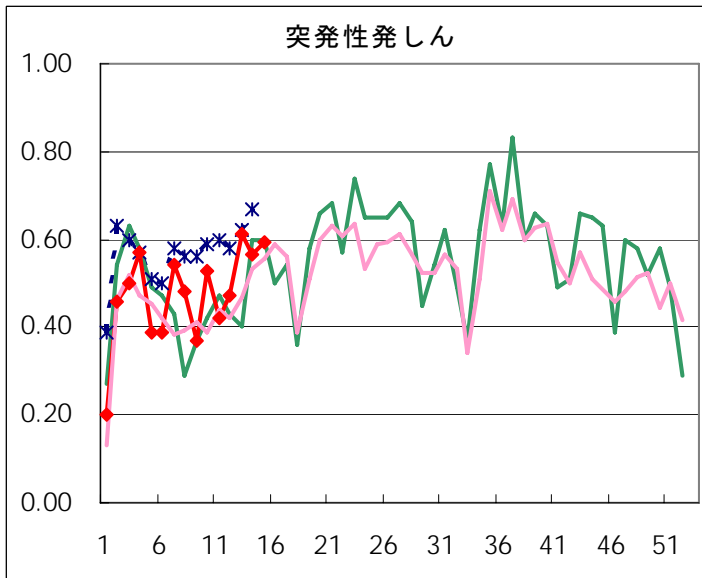
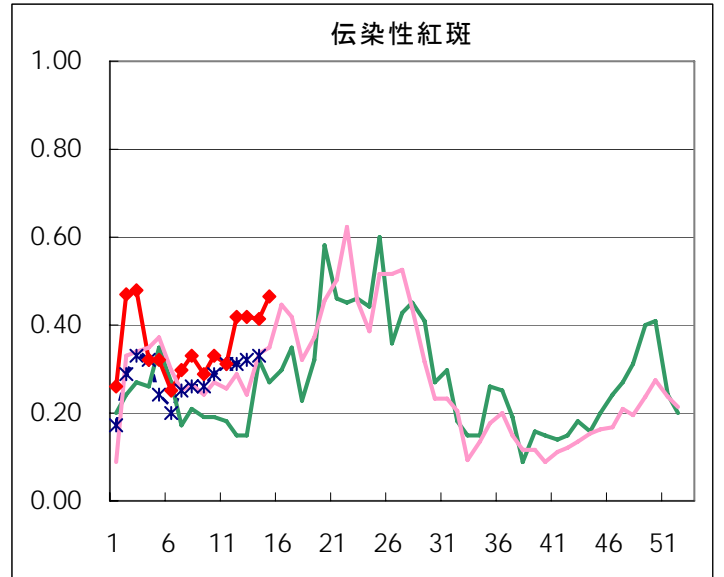
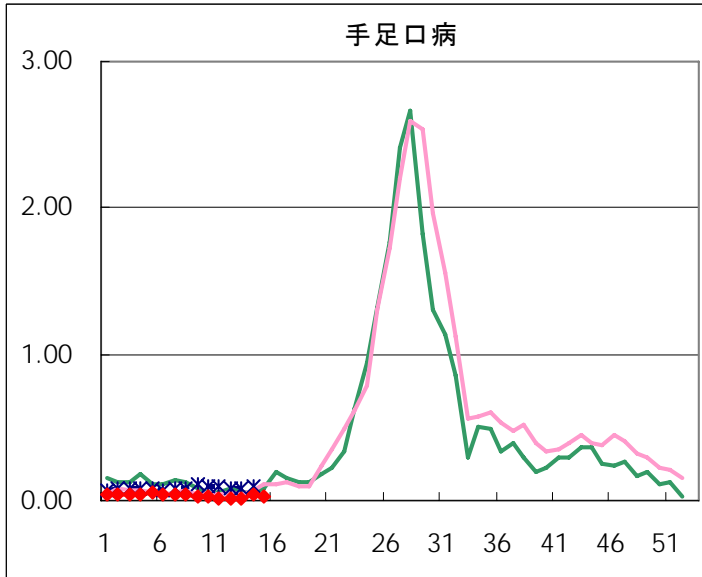
## 五類定点把握対象疾患 患者報告数【男女別】 2006年15週

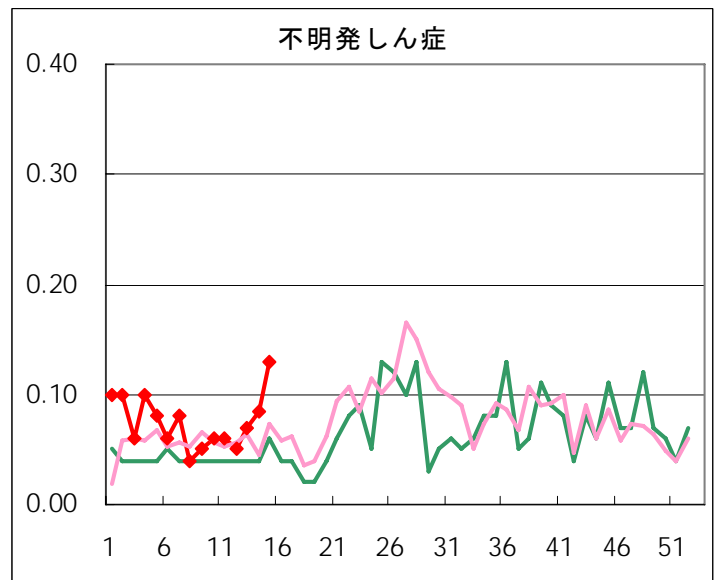
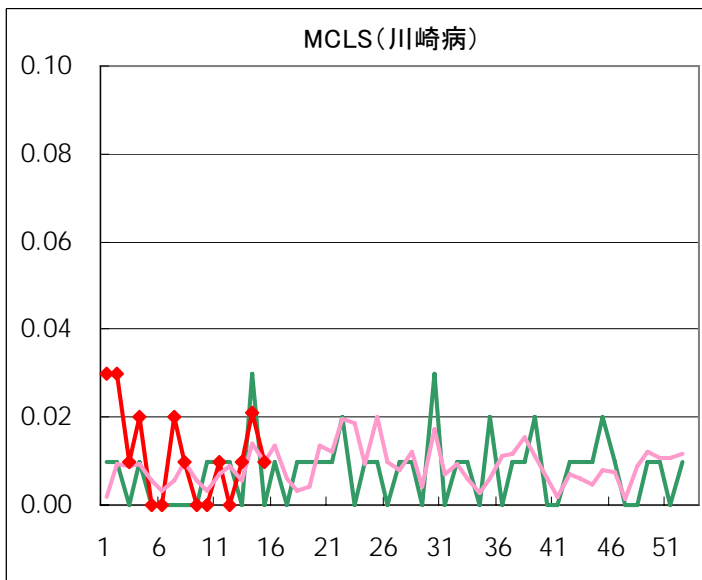
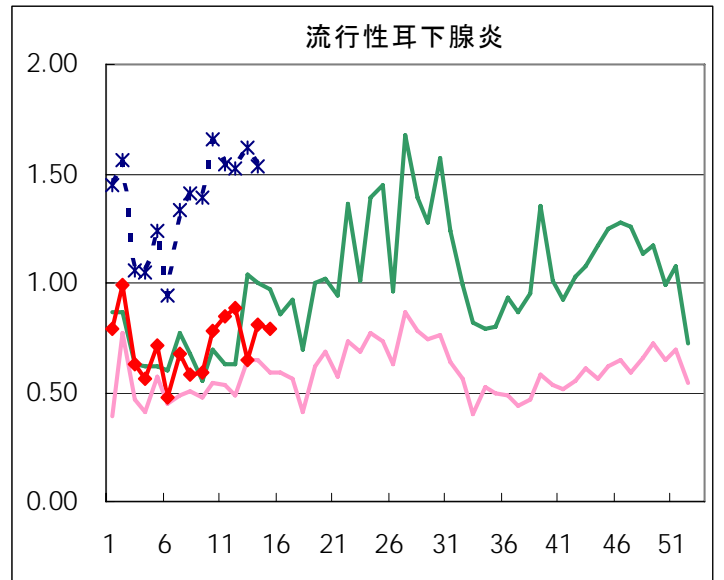
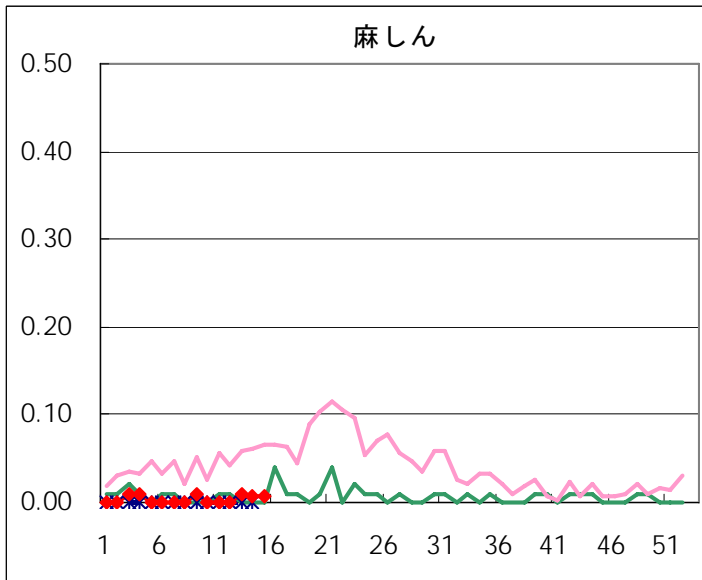
疾病名	性	2006年				4週合計	年累計
		12	13	14	15		
RSウイルス感染症	男	2	4	1	1	8	85
	女	1	2	1	1	5	67
インフルエンザ	男	146	78	32	49	305	11,890
	女	138	84	31	38	291	11,760
咽頭結膜熱	男	23	23	19	23	88	299
	女	21	28	17	16	82	273
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	男	168	120	117	159	564	2,160
	女	154	100	95	127	476	1,923
感染性胃腸炎	男	475	413	437	482	1,807	7,777
	女	446	399	391	387	1,623	7,380
水痘	男	133	94	100	117	444	1,448
	女	102	95	110	111	418	1,350
手足口病	男			5	2	7	38
	女	3	1	1	1	6	34
伝染性紅斑	男	28	33	33	34	128	398
	女	32	27	26	32	117	367
突発性発しん	男	33	44	45	50	172	530
	女	34	42	35	34	145	478
百日咳	男			1		1	1
	女						2
風しん	男		2		1	3	4
	女	1	1		1	3	5
ヘルパンギーナ	男	6	5	5	9	25	58
	女	5	5	10	10	30	67
麻しん(成人麻しんを除く)	男		1		1	2	6
	女			1		1	1
流行性耳下腺炎	男	57	50	67	74	248	823
	女	69	43	48	38	198	709
不明発しん症	男	3	3	8	9	23	82
	女	4	7	4	9	24	74
MCLS	男		1	1	1	3	12
	女		1	2	1	4	13
急性出血性結膜炎	男	1		1		2	2
	女						1
流行性角結膜炎	男	7	2	2	2	13	48
	女	5	3	2	4	14	41
細菌性髄膜炎	男						2
	女						
無菌性髄膜炎	男						1
	女						1
マイコプラズマ肺炎	男	4	4	3	1	12	23
	女		1	4	1	6	14
クラミジア肺炎(オウム病を除く)	男						
	女						
成人麻しん	男						
	女						

# 五類定点把握対象疾患 患者報告数【推移グラフ】 2006年15週現在

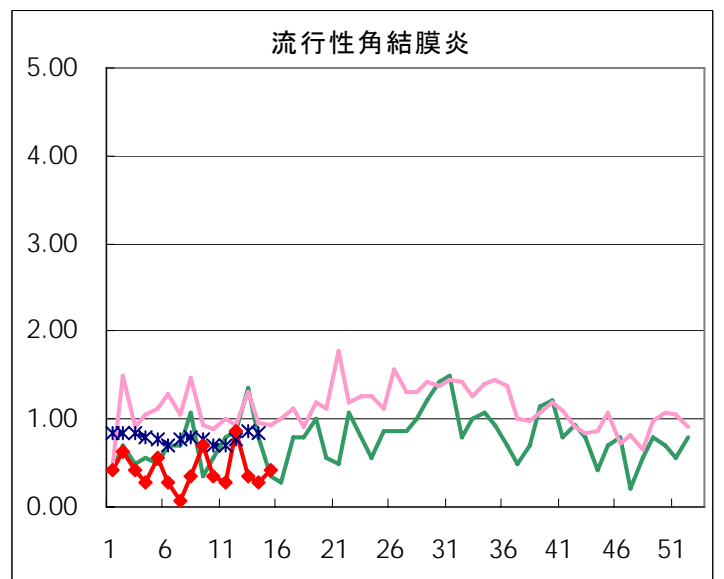
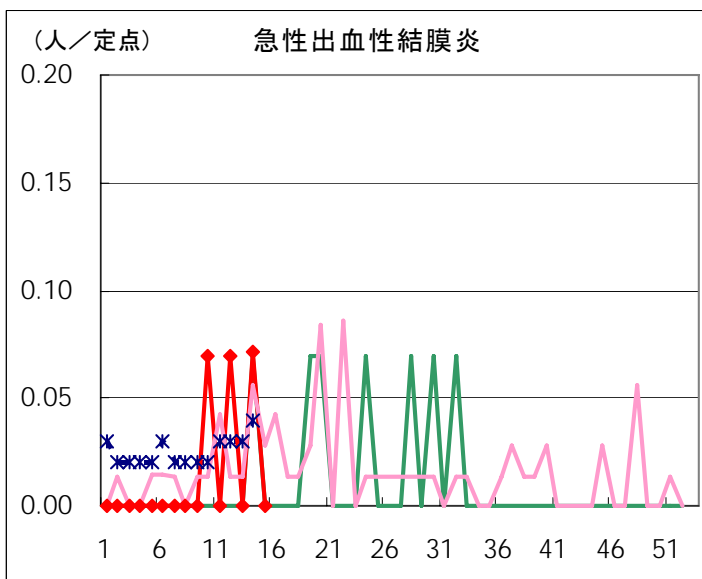
## ◆ 小児科・インフルエンザ定点





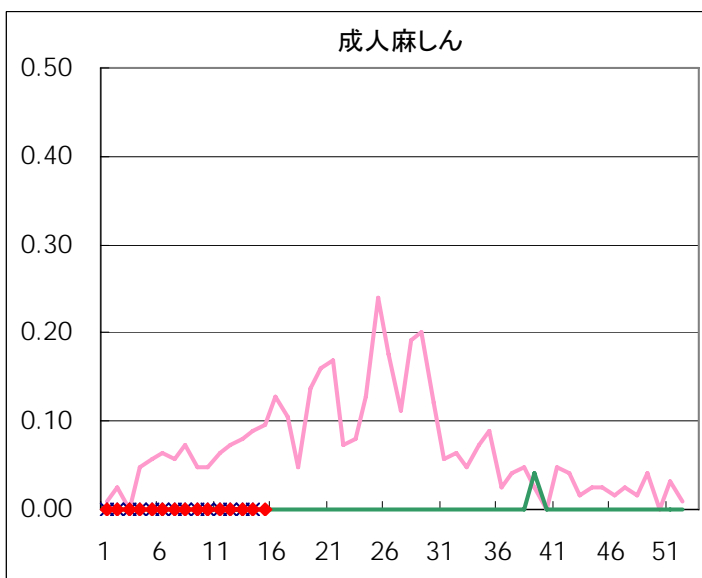
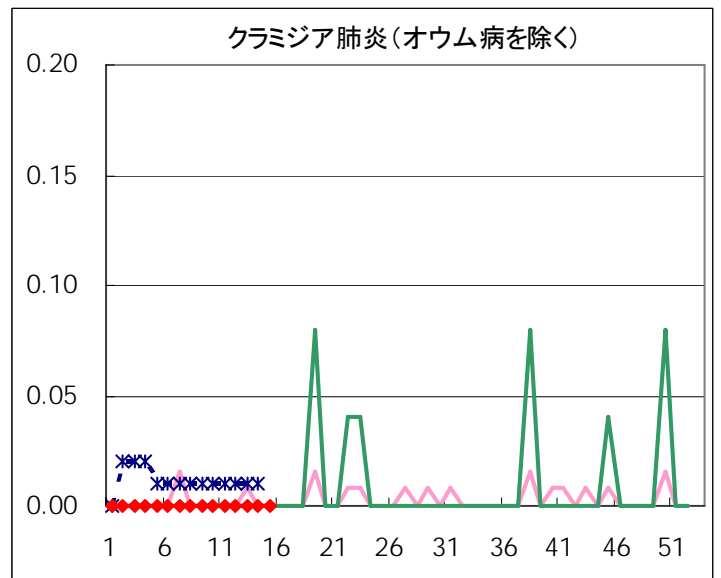
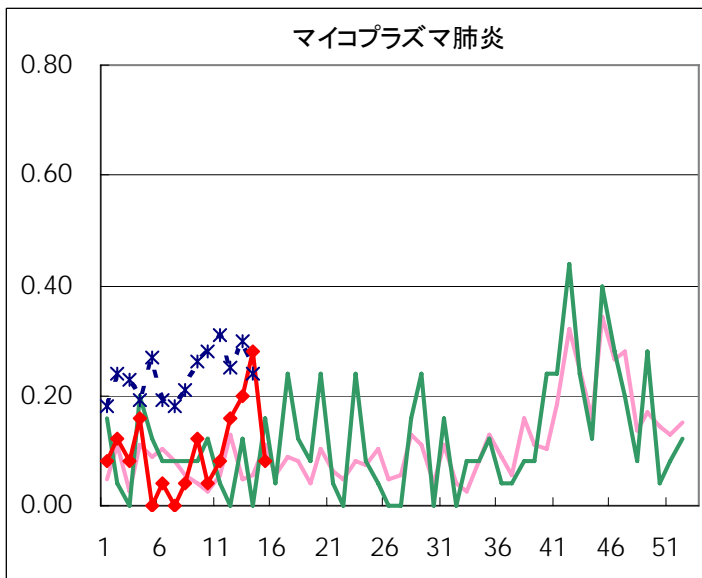
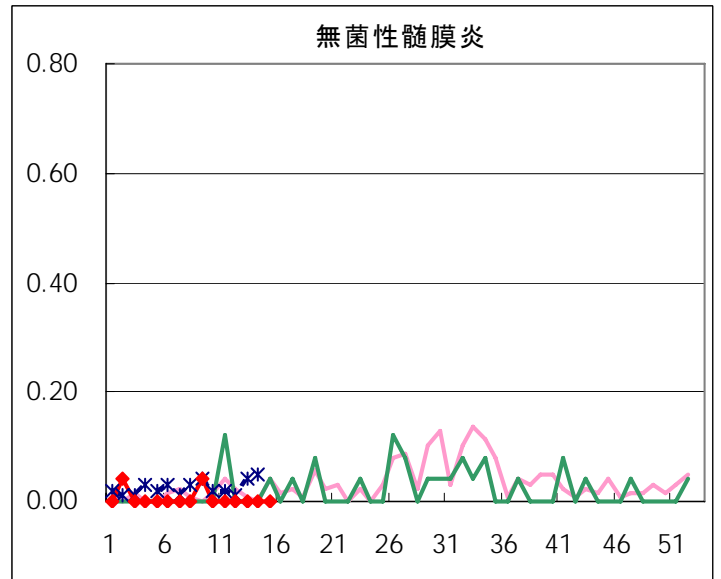
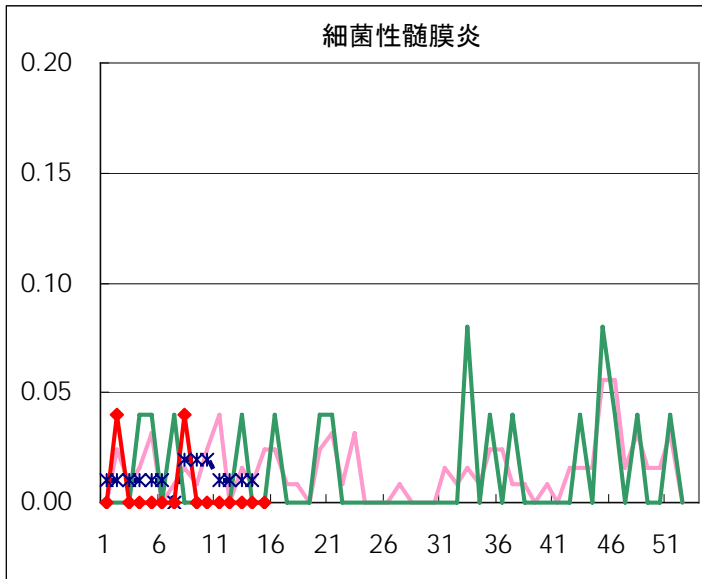


◆ 眼科定点





◆ 基幹定点



疾患別の定点医療機関数(週単位報告分)		
定点種別	疾患	医療機関数
インフルエンザ	インフルエンザ	178
眼科	急性出血性結膜炎	14
	流行性角結膜炎	
基幹	急性脳炎	25
	細菌性髄膜炎	
	無菌性髄膜炎	
	マイコプラズマ肺炎	
	クラミジア肺炎	
小児科	成人麻しん	142
	上記を除く疾病	

五類定点把握対象疾患 患者報告数【保健所別】2006年15週

	RS ウイルス 感染症	インフルエ ンザ	咽頭 結膜熱	A群溶血性 レンサ球菌 咽頭炎	感染性 胃腸炎	水痘	手足口病	伝染性 紅斑	突発性 発しん	百日咳
千代田	1			7	5	5				
中央区				3	7	17		3	6	
みなと		5	13	23	27	3		6	1	
新宿区		1	1	2	21	1			1	
文京		2		2	9	1		1	3	
台東		2	2	7	18	5		1	1	
墨田区		2		4	12	1				
江東区		2		11	29	6		8	2	
品川区				14	58	12		1	1	
目黒区		1		8	5	3		2	2	
大田区	1	39	3	33	101	15	2	12	9	
世田谷		1	1	13	62	20		2	4	
渋谷区		1		6	38	8		2	1	
中野区				8	36	4		1	2	
杉並		4		19	54	5		2	4	
池袋					1			3		
北区		1	2	6	28	1		8	6	
荒川区		2	1	5	18	2		1		
板橋区			1	1	23	3			5	
練馬区		1	1	13	22	7	1	2	2	
足立		2	1	4	18	1			1	
葛飾区				10	22	13		1	5	
江戸川		3	3	16	14	9		3	1	
西多摩				1	32	12		1	3	
八王子				15	20	12			1	
南多摩				4	43	2			4	
町田				11	26	8			3	
多摩立川				6	14	2		1		
多摩府中		9	1	7	43	20		4	11	
多摩小平		8	4	21	63	20		1	5	
島しょ		1	5	6		10				

東京都合計	2	87	39	286	869	228	3	66	84	-
定点当り報告数	0.01	0.49	0.27	2.01	6.12	1.61	0.02	0.46	0.59	-

五類定点把握対象疾患 患者報告数【保健所別】2006年15週

	風しん	ヘルパン ギーナ	麻疹 (成人麻疹 を除く)	流行性 耳下腺炎	急性出血 性結膜炎	流行性 角結膜炎	不明 発しん症	MCLS	合計
千代田				1			1		20
中央区				2			2		40
みなと	2	5		4		1			90
新宿区				6		2	1		36
文京		1		2		1			22
台東				1					37
墨田区				3			1		23
江東区			1			1	1		61
品川区		1		6					93
目黒区				3					24
大田区		3		6				2	226
世田谷				19			1		123
渋谷区				2					58
中野区				2					53
杉並				6					94
池袋				1					5
北区		3		2					57
荒川区				3					32
板橋区							1		34
練馬区				5					54
足立									27
葛飾区				12			4		67
江戸川				2					51
西多摩				2					51
八王子				1		1			50
南多摩				5					58
町田		1					5		54
多摩立川				1					24
多摩府中		5		3					103
多摩小平				12			1		135
島しょ									22

東京都合計	2	19	1	112	-	6	18	2	1,824
定点当り報告数	0.01	0.13	0.01	0.79	-	0.43	0.13	0.01	

五類定点把握対象疾患 患者報告数【保健所別・定点当たり】2006年15週

	RS ウイルス 感染症	インフルエ ンザ	咽頭 結膜熱	A群溶血性 レンサ球菌 咽頭炎	感染性 胃腸炎	水痘	手足口病	伝染性 紅斑	突発性 発しん	百日咳
千代田	0.25			1.75	1.25	1.25				
中央区				1.00	2.33	5.67		1.00	2.00	
みなと		0.71	2.17	3.83	4.50	0.50		1.00	0.17	
新宿区		0.14	0.17	0.33	3.50	0.17			0.17	
文京		0.50		0.67	3.00	0.33		0.33	1.00	
台東		0.50	0.67	2.33	6.00	1.67		0.33	0.33	
墨田区		0.50		1.33	4.00	0.33				
江東区		0.50		3.67	9.67	2.00		2.67	0.67	
品川区				2.33	9.67	2.00		0.17	0.17	
目黒区		0.25		2.67	1.67	1.00		0.67	0.67	
大田区	0.11	3.90	0.33	3.67	11.22	1.67	0.22	1.33	1.00	
世田谷		0.11	0.13	1.63	7.75	2.50		0.25	0.50	
渋谷区		0.20		1.50	9.50	2.00		0.50	0.25	
中野区				1.33	6.00	0.67		0.17	0.33	
杉並		0.57		3.17	9.00	0.83		0.33	0.67	
池袋					0.20			0.60		
北区		0.20	0.50	1.50	7.00	0.25		2.00	1.50	
荒川区		0.67	0.50	2.50	9.00	1.00		0.50		
板橋区			0.17	0.17	3.83	0.50			0.83	
練馬区		0.17	0.20	2.60	4.40	1.40	0.20	0.40	0.40	
足立		0.40	0.25	1.00	4.50	0.25			0.25	
葛飾区				2.50	5.50	3.25		0.25	1.25	
江戸川		0.60	0.75	4.00	3.50	2.25		0.75	0.25	
西多摩				0.20	6.40	2.40		0.20	0.60	
八王子				7.50	10.00	6.00			0.50	
南多摩				1.33	14.33	0.67			1.33	
町田				5.50	13.00	4.00			1.50	
多摩立川				1.00	2.33	0.33		0.17		
多摩府中		0.69	0.10	0.70	4.30	2.00		0.40	1.10	
多摩小平		1.00	0.67	3.50	10.50	3.33		0.17	0.83	
島しょ		0.50	5.00	6.00		10.00				

東京都合計	2	87	39	286	869	228	3	66	84	-
定点当り報告数	0.01	0.49	0.27	2.01	6.12	1.61	0.02	0.46	0.59	-

五類定点把握対象疾患 患者報告数【保健所別・定点当たり】 2006年15週

	風しん	ヘルパン ギーナ	麻疹 (成人麻疹 を除く)	流行性 耳下腺炎	急性出血 性結膜炎	流行性 角結膜炎	不明 発しん症	MCLS
千代田				0.25			0.25	
中央区				0.67			0.67	
みなと	0.33	0.83		0.67		1.00		
新宿区				1.00		1.00	0.17	
文京		0.33		0.67		1.00		
台東				0.33				
墨田区				1.00			0.33	
江東区			0.33			1.00	0.33	
品川区		0.17		1.00				
目黒区				1.00				
大田区		0.33		0.67				0.22
世田谷				2.38			0.13	
渋谷区				0.50				
中野区				0.33				
杉並				1.00				
池袋				0.20				
北区		0.75		0.50				
荒川区				1.50				
板橋区							0.17	
練馬区				1.00				
足立								
葛飾区				3.00			1.00	
江戸川				0.50				
西多摩				0.40				
八王子				0.50		1.00		
南多摩				1.67				
町田		0.50					2.50	
多摩立川				0.17				
多摩府中		0.50		0.30				
多摩小平				2.00			0.17	
島しょ								

東京都合計	2	19	1	112	-	6	18	2
定点当り報告数	0.01	0.13	0.01	0.79	-	0.43	0.13	0.01

## 五類定点把握対象疾患 患者報告数【年齢階級別】 2006年15週

	RS ウイルス 感染症	インフルエ ンザ	咽頭 結膜熱	A群溶血性 レンサ球菌 咽頭炎	感染性 胃腸炎	水痘	手足口病	伝染性 紅斑	突発性 発しん
～5か月	1				13	2			3
～11か月	1	3	2		63	17		1	32
1歳		3	5	11	155	43	1	2	38
2歳		2	2	12	93	53	1	8	4
3歳		5	3	29	82	34	1	8	4
4歳		10	11	37	67	28		7	
5歳		7	4	30	52	19		10	1
6歳		18	1	43	43	11		5	
7歳		6		39	46	5		7	2
8歳		4	6	18	29	3		10	
9歳		3	1	18	29	2		3	
10～14歳		11	4	23	68	7		5	
15～19歳		3		2	16				
20～29歳		1		24	113	4			
30～39歳		9							
40～49歳		1							
50～59歳									
60～69歳		1							
70～79歳									
80歳以上									
合計	2	87	39	286	869	228	3	66	84
先週比	0	24	3	74	41	18	-3	7	4

注:小児科定点把握対象疾病のうち、「20～29歳」は「20歳以上」と読み替える。  
眼科疾患のうち、「70～79歳」は「70歳以上」と読み替える。

	百日咳	風しん	ヘルパン ギーナ	麻しん (成人麻しん を除く)	流行性 耳下腺炎	急性出血性 結膜炎	流行性 角結膜炎	不明 発しん症	MCLS
～5か月					1			2	
～11か月			1					5	
1歳			6	1				5	1
2歳			3		12			1	1
3歳			5		13			2	
4歳			3		15			1	
5歳			1		17		1		
6歳					17			2	
7歳					14				
8歳		1			6				
9歳		1			4				
10～14歳					7				
15～19歳					1				
20～29歳					5		2		
30～39歳							2		
40～49歳									
50～59歳									
60～69歳							1		
70～79歳									
80歳以上									
合計	-	2	19	1	112	-	6	18	2
先週比	-1	2	4	0	-3	-1	2	6	-1

注:小児科定点把握対象疾病のうち、「20～29歳」は「20歳以上」と読み替える。  
眼科疾患のうち、「70～79歳」は「70歳以上」と読み替える。

# 病原体・抗体検査情報

週別検出状況 2006年8週～15週

検出病原体・抗体		検体採取週								合計
		2006年								
		8	9	10	11	12	13	14	15	
ウイルス	アデノ	7	5	9	5	12	7	1	4	50
	ライノ	4	2	4	5		1		4	20
	ポリオ	1	1	2						4
	コクサッキーA群									
	コクサッキーB群							1		1
	エコー									
	エンテロ71									
	その他のエンテロ	1		3	1		1	2	2	10
	単純ヘルペス	1	1	2	1					5
	水痘・帯状疱疹		1					1		2
	ヘルペス6/7	1	3	3	2	3	2	3	2	19
	EB		3	3	3	1	1		1	12
	サイトメガロ	2			1	1	2		1	7
	ムンプス	1	1	1		1		1		5
	麻疹									
	風しん		1							1
	パルボB19						1			1
	RS	4	2	1	1		3		1	12
	ノロ	81	34	15	37	47	24	80	50	368
	ロタ	18	6	5	3	7	4	4	1	48
インフルエンザAソ連型	22	4	3	2	5	1	2		39	
インフルエンザA香港型	13	4	5	1		1			24	
インフルエンザB型								5	5	
デング										
その他のウイルス				1					1	
細菌	カンピロバクター		1							1
	サルモネラ									
	腸管出血性大腸菌				1					1
	その他の腸管系病原菌			3	1	2	1		3	10
	溶血性レンサ球菌		9		3			14		26
	MRSA				1					1
	MSSA									
	その他の細菌	1	1			1				3
その他の病原体								1	1	

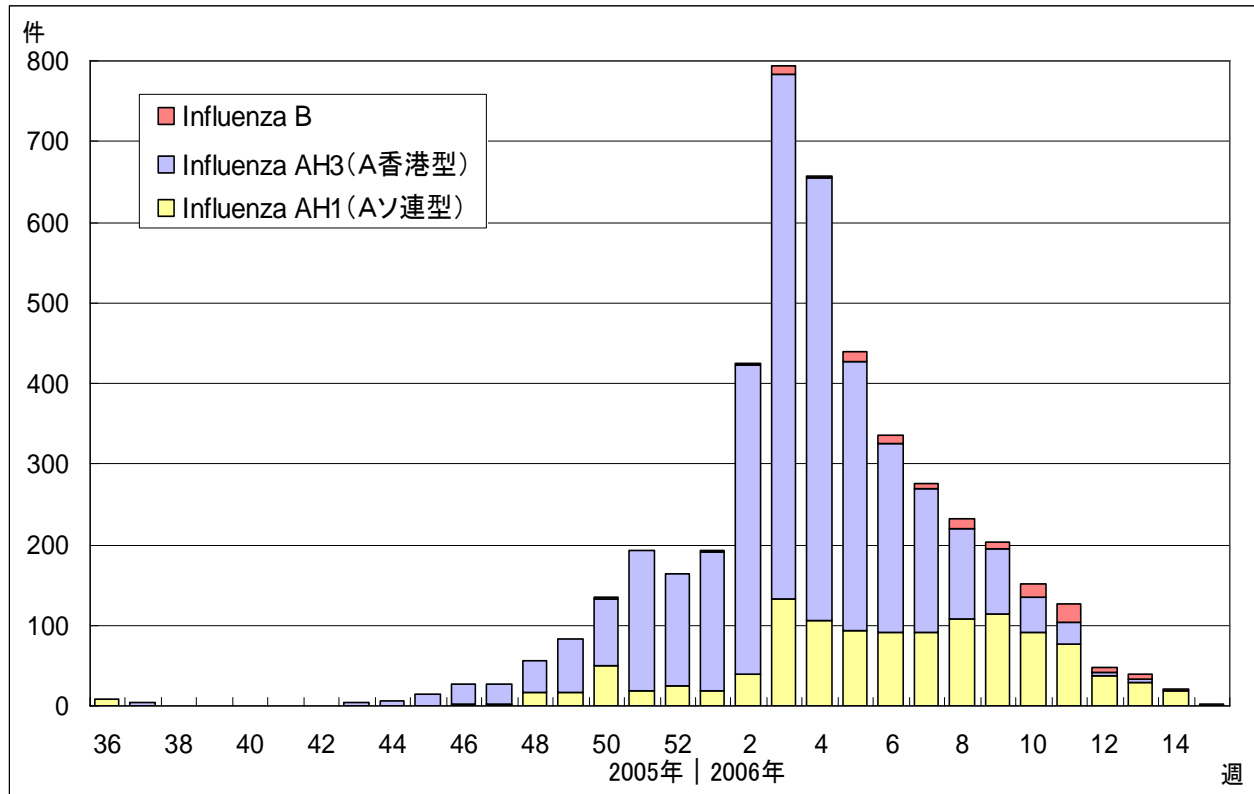
臨床診断名別検出結果 2006年8週～15週

臨床診断名 検出病原体	インフルエンザ	上気道炎	下気道炎	感染性胃腸炎	無菌性髄膜炎	咽頭結膜熱	A群溶連菌咽頭炎	流行性角結膜炎	ヘルパンギーナ	手足口病	伝染性紅斑	不明発しん症	流行性耳下腺炎	水痘	麻疹	風しん	その他	合計
搬入検体数	87	43	71	1286	16	1		1	2		3	31	10	1			183	
アデノ	1	13	10	8	1			1				1	1				14	50
ライノ		1	8		1							1	1				8	20
ポリオ				1								3						4
コクサッキーA群																		
コクサッキーB群				1														1
エコー																		
エンテロ71																		
その他のエンテロ		2	2	2	1							1					2	10
単純ヘルペス		1							1								3	5
水痘・帯状疱疹しん											1			1				2
ヘルペス6/7	1		2	1					1			10					4	19
EB		3	3								1	1	2				2	12
サイトメガロ		1		1								2					3	7
ムンプス					2								3					5
麻疹																		
風しん																	1	1
パルボB19											1							1
RS			10														2	12
ノロ				368														368
ロタ				48														48
インフルエンザAソ連型	30	4	4														1	39
インフルエンザA香港型	21	1															2	24
インフルエンザB型	5																	5
カンピロバクター			1															1
サルモネラ																		
腸管出血性大腸菌																	1	1
その他の腸管系病原菌				2													8	10
溶血性レンサ球菌																	26	26
その他の病原体			1														5	6
備考	この表の「その他の病原体」は「週別検出状況」の表にある「デング」「その他のウイルス」「MRSA」「MSSA」「その他の細菌」と「その他の病原体」の合計である。																	



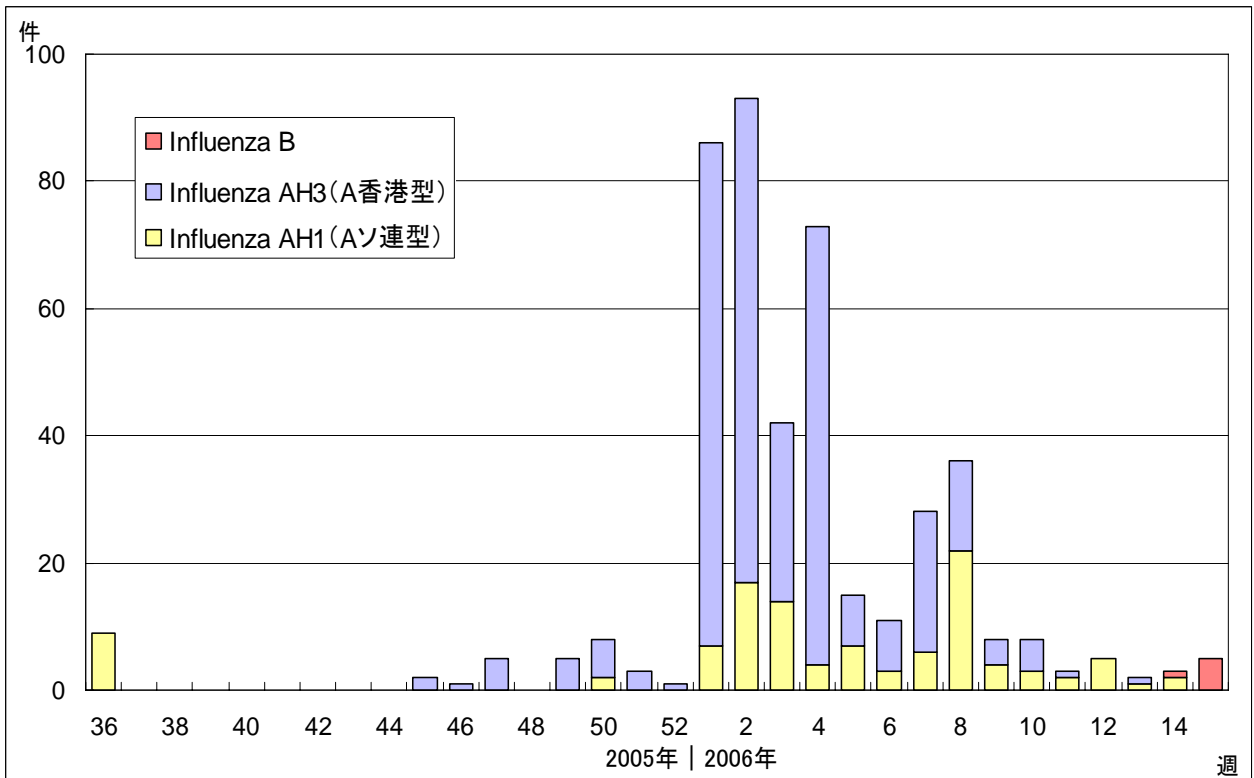
# クローズアップ (インフルエンザ)

2005 - 06シーズンのインフルエンザウイルス検出状況 (全国)



IASR 病原微生物検出情報 (2006年4月21日現在報告数)

2005 - 06シーズンのインフルエンザウイルス検出状況 (東京都)



微生物部ウイルス研究科・多摩支所微生物研究科

## <感染症豆知識>

### 細菌性赤痢

感染症法に基づく医師の届出による細菌性赤痢の患者、疑似症患者及び無症状病原体保有者は、平成15年471例、平成16年597例、平成17年560例であった。四分の三は国外での感染が推定され、国別ではインド、インドネシア、中国、ベトナム、フィリピン、タイ、カンボジア、ネパールの順に多く、アジアが大部分を占めた。従来に比べ、アジア以外の感染地域が多様化する傾向がみられる。平成16年にはハワイから日本への航空機機内食が原因と考えられる集団発生、本年1月にはマレーシア、シンガポールへの高校修学旅行での集団発生が報告されている。帰国時、帰国後に下痢、発熱等の症状がある場合には、検疫所・保健所での健康相談や医療機関での受診が必要であることを海外旅行者に十分認識させなくてはならない。

赤痢菌は腸管出血性大腸菌と同様に、少ない菌量で感染するため、家族内感染など二次感染が起りやすい。十分な加熱調理や石鹸による手洗いが感染予防に有効である。また、少数の菌で汚染された食品から感染することから、原因食品が特定されないことが多い。食品衛生法に基づく赤痢菌による食中毒の届出は平成12年以降、8事件（患者総数182人）で、ほとんどが飲食店での発生である。

赤痢菌は耐性菌が多いため、薬剤感受性の情報が治療上不可欠である。日本医師会の治療ガイドラインではフルオロキノロン系抗菌薬とホスホマイシンの5日間投与が推奨されている。最近、アフリカ、アジアで報告されたシプロフロキサシン耐性菌に今後注意が必要である。

(文責・山下和予)